議会だより さまに No.6
2020年（令和2年）11月1日発行

◎議会の主な動き◎

７月２９日	総務産業常任委員会	９月　３日	総務産業常任委員会
８月２１日	日高東部消防組合議会全員協議会	９月１５日	町議会定例会【至１８日】
８月２８日	社会文教常任委員会	９月１８日	議会広報常任委員会
	全員協議会	９月２４日	日高東部消防組合議会臨時会

アポイ岳伐採試験地区 検証・視察登山

９月定例会で一般質問された八木田議員からのアポイ岳６合目付近のキタゴヨウマツ等の伐採について、議会広報常任委員会及び様似町林活議連として現状確認のため、10月6日午前8時、八木田、佐々木両議員が5合目から7合目までの伐採地を目指した。

前夜の雨も上がり、順調に5合目の山小屋をスタートしてすぐ、登山道の左側にある伐採試験区3は容易に確認ができた。幅1ｍ程で縦長の形で伐採されていた。次に6合目下の伐採試験区2を目指し、登山道右側を注視しながら6合目標識まで来たが、伐採箇所ははっきりとは確認できなかった。最後の7合目下の伐採試験区1へ向かいながら、町の中心部の眺めは素晴らしいものだった。

伐採試験区1はハイマツが多く、伐採数が一番多い試験区だったが、伐採試験区2と同様にはっきりとは確認できなかった。議会での答弁で、伐採試験の目的の一つに、登山者等に再生の取り組みを知らせることを考えて、登山道沿いとしたとのことだったが、その必要性があったのか、また、その目的は果たされているのか。

この伐採事業は、様似町の諮問機関である「アポイ環境科学委員会」の検討結果に基づき実施されたとの説明だが、町民の宝（国民の宝）であるアポイの自然が、多くの町民の知らないところで決定されているのは大きな問題である。「アポイ環境科学委員会」（5年間で国費2，500万円、道費1，200万円、町費1，300万円、計約5千万円の経費を投入）は来年3月で終了となるが、これを引き継ぐ組織が直ちに必要なのか、この委員会の手法やこの事業の検証をする必要から、一度ここで立ち止まるべきか、『アポイの自然』は大きな岐路を迎えている。



→アポイの花の天敵
ハイマツ群（7合目）

次回定例会の予定は…

12月16日（水）から
12月17日（木）まで

時間：午前　9時　30分から
場所：役場３階議場

議会を傍聴しませんか？

（※傍聴の際は、マスク着用をお願いいたします。）

編集後記

今のコロナ禍のパンデミックは色々な事を変えた。オリンピックも延期となった。この状況を半世紀以上前に予言した小説が、小松左京の「復活の日」である。図書館で本を借り改めて読んで、幾つかの疑問があったが、最近になって少し納得している。

小松は大阪で生まれ太平洋戦争開戦の時15歳であった。少年時代は戦争とともにあった。人類が自ら生み出した、ウイルス兵器によって自滅する姿を描く、それは小松の戦争に対する警鐘でもあった。この本が発売されたのが、1964（昭和39）年、東京オリンピックの年で、この年「日本沈没」の執筆を始めた。

読書の秋である。

（水野）

編集　様似町議会議会広報常任委員会／発行責任者　議長　工藤　仁
〒058-8501　北海道様似郡様似町大通1丁目21番地
TEL 0146（36）2141　FAX 0146（36）2662

議会広報常任委員会
委員長　坂本好則
副委員長　佐々木敏
委員　八木田和浩
委員　高村洋子
委員　水野洋一